

＜グレゴリオ・アレグリ作曲：「ミゼレーレ」鑑賞レポート＞

2015年12月10日
銀座書齋・奥の聖域にて

毎日の日課に「JTB=レッスン日記 (English Hills の重要教材) の12月2日に「すべての受講生・弟子に対して捧げる生母キリヤのプレゼント … グレゴリオ・アレグリ作曲：ミゼレーレの鑑賞」というタイトルを見つけ、ワクワクした。

今まで一度も利用しなかったこの「ホットライン制度」をドキドキしながら使わせてもらい、先生に鑑賞させて頂きた…旨をお伝えする。身分不相応と思いつつ、お優しい先生の言葉に安心し、次回レッスンに想いを馳せる。

音楽に対して、無教養で恥しい限りであるが、当日は心を落ち着けて、神聖な雰囲気を汚すことのない精神状態でドアをノックしよく心に誓う。

グレゴリオ聖歌と言えば、和にとって新卒で入社して会社の部長が好んで、今ではなつかいMDに録音されたものを是非聴いてみたいとプレゼントされたことさえ思い出す。

鑑賞音楽：グレゴリオ・アレグリ (1582-1652)
ミゼレーレ (歌唱：14分間)

レッスン日記に、ミゼレーレは旧約聖書詩篇の精神を音楽に込めた作品で、イタリア、ルネサンス末期を主題とする教会音楽史上の最高傑作の一つと知られているとあった。



当日、生井先生より鑑賞の仕方や奥の聖域への道のりをもとめと狭くしている首などの説明を受ける。先生がとても厳かな空気の中、ろうそくに火を灯して下り、導びかれるままに初めて奥の聖域に立ち入らせて頂く。

まず、いつもレッスンをしていた奥のスペースに小宇宙のような異空間が広がっていることに衝撃を受ける。

素晴らしい絵画があり、ライティングも工夫されていて、とても厳格な空気でありつつも、温かい聖母マリア様の慈悲の心のようなものに満たされた空間。こんな贅沢な空間に朝から身を置かせてもらえることに、ただただ感謝の念が溢れる。

音楽が流れ出し、その音域、奥域のなさに、又、衝撃を受けた。そして祈りのような美しい歌声が深く身体にじわりじわりと浸み込んでいくかのような感覚に陥った。

先生がおっしゃった「世界最高峰の清らか、且つ、純粋なる美の境地」は、レッスン日記で目にした際は俄かに想像できなかったその境地に身を置かせて頂いていることに、じわりと感動がこみあげてきた。

深い歌唱に身を預けていらうちに、この時の精神性や自然など人間の力の及ばない領域への畏怖や尊敬の念などに想いが及んだ。

自然災害や避けがたい困難を目の当たりにした時の人間の脆弱さ、非力などに対峙した際、人間は傲慢さに初めて気付くと思う。この時代の人々はより自然に近く謙虚に神と寄り添って、日々神を感じながら暮らしていたのだらうと感じた。



そして、現代を生きる私の日々、とるに足らない日常を俯瞰して見る機会を頂いたように思う。

歌唱に身を委ねるうちに、心がすーっと軽くなり、まさに精神の浄化を体験することができた。

こうして銀座の真ん中の聖なる空間で神聖なる音楽を鑑賞させて頂く機会を下さった生井先生への感謝の気持ちと幸せで胸がいっぱいになり、見えたりものへのありがたさで溢れたところで、曲が終了。感動で涙がこぼれ出てくるのを覚悟した。

一年前では、銀座に通うことも想像していませんでしたが、この唯一無二のお教室に通うことが出来る事に感謝しつつ精神性を高める経験や日々コツコツと英語の勉強をすることを怠らず、2020年までに自分の良さを自分の代表として英語できちんと伝えられるように精進していきたく思いを新たにしました。

素晴らしい鑑賞の贈り物を本当にありがとうございます。

